

## 寄附講義「会社研究」 第11回目（第12回）

令和2年7月29日 13時10分

講師 大分経済同友会代表幹事

株式会社大分銀行取締役会長

姫野 昌治 氏

テーマ ～大分の持続的な発展に向けて～

「若者よ、チャレンジしよう！」

姫野会長は大分銀行の現役時代、激務を縫って大分大学大学院経済学研究科で修士課程を修められた方です。講義では学生に大分県のことをよく知ってほしいと5つのテーマで話されました。



<https://www.oitabank.co.jp/company/info/yakuin/>

### ご経歴

昭和27年(1952年)生まれ。昭和50年(1975年)慶應義塾大学経済学部卒業後、株式会社大分銀行に入行。平成17年(2005年)より取締役本店営業部長、平成18年(2006年)専務取締役・本店営業部長、平成19年(2007年)に常務取締役、平成20年(2008年)に専務取締役、平成22年(2010年)取頭取、平成28年(2016年)に取締役会長に就任。

その他の役職として、大分経済同友会代表幹事、九州経済同友会副会長、大分県立看護科学大学理事、三和酒類株式会社社外監査役、株式会社オーイーシー社外取締役他。

中小企業診断士、証券アナリスト。

平成6年(1994年) 本学大学院経済学研究科修士課程修了。

### I 日本の現状と課題

人口減少下の大分県では、自然減と社会減が続いて、生産年齢人口と年少人口の減少、高齢者人口の増加が進行しています。以前は東京への若者の転出超過が多かったのが、最近では福岡県への転出が増えています。

産業構造では経済の第三次産業化が進んでいます。製造

業において、福岡県は輸送用機械器具が 34.5%を占め、鹿児島県では食料品が 34.5%を占めるなど各県特色がある中で、大分県は特例の業種に偏らず、輸送用機械、化学、鉄鋼・非鉄など多様な業種が操業しています。

## Ⅱ アベノミクスと日本銀行の金融政策

金融緩和、財政出動、成長戦略という三本の矢によるデフレ脱却や GDP 成長、子育て支援、社会保障など新三本の矢政策が取られてきました。

## Ⅲ 労働生産性の現状と課題

日本の労働生産性は国際的に低水準にあります。特に非製造業においてはアメリカの半分です。30年前、OECD 諸国の中で 2 番目に高かった一人当たり GDP は 2018 年には 26 位まで落ちました。

生産性を上げるためには IT 化、クリエイティブ、ホスピタリティの面においてイノベーションを進めなければなりません。

## Ⅳ 地域の活性化に向けて

これらの課題を克服するための方策の一つは観光の振興にあります。大分県は豊かな観光資源に恵まれています。小藩分立で出来上がった多くの城下町、輩出した多彩な文化人、アフリカンサファリや海たまご、スポーツ公園、スキー場などの体験型レジャー施設。観光客を惹きつける自然、文化、歴史に恵まれています。

今はコロナ禍で海外旅行ができなくなった国内客を呼び寄せる良いチャンスです。大分観光の弱点である宿泊客を増やすために情報発信や地域間のネットワークが求められます。

## Ⅴ 人材育成と女性の活躍

女性の仕事については、結婚・子育てで一旦退職し、その後復職する就業率の M 字カーブの問題があります。賃金の男女格差を是正するためにも、子育て後も正規職員として働けるようにし、女性管理職を増やすことが求められま

す。

大分大学に求める人材育成は次の 3 点です。① 中小企業・宿泊・観光施設等のマネジメントを担う人材。② 生産性向上や顧客満足度向上に不可欠な現場のサービスリーダー。③ 職場の IT 化を推進できる人材。

これから就職を目指す皆さんには、家賃が安い、人口当たり保育所が多い、通勤時間が短いなど郷土で働く魅力を知ってほしい。都道府県別魅力ランキングで大分県は上位にあり、住みたい田舎ランキングでは臼杵市や豊後高田市が 1 位に評価されています。



姫野会長は、以上の内容を 70 枚の図表を用いて具体的に裏付けながら詳しくかつ分かりやすく講義されました。

ありがとうございました。